



義捐金は「産経新聞厚生文化事業団」を通じて
能登半島地震・豪雨で被災されました方々へ届けます。

ユネスコ第1回世界無形遺産 能楽

第7回 みおつくしチャリティー能

令和6年12月22日(日) 会場・大槻能楽堂

第1部 10時開演

観世流能

大藏流狂言

観世流舞囃子

宝生流能

賀 土 郡 羽

茂 筆 鄂 衣 沙 盤

山中 雅志

善竹 彌五郎

山本 章弘

石黒 実都

第2部 14時30分開演

観世流能

喜多流舞囃子

大藏流狂言

観世流能

主催・公益社団法人 能楽協会 大阪支部

鉢 木

寺澤 幸祐

俊成 忠度

高林 昌司

飛 越

善竹 隆平

野 守

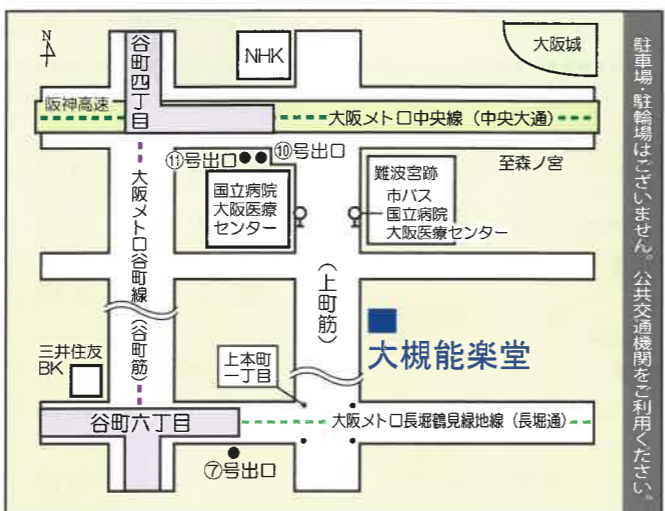
林本 大

みおつくしチャリティー能

会場のご案内

大槻能楽堂 大阪市中央区上町A-7

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅
⑩号出口徒歩5分(⑩号出口にエレベーターあり)
- 大阪メトロ谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅
⑦号出口徒歩5分(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」下車徒歩1分
※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行き乗車
※あべの橋(天王寺公園前)から62系統「大阪駅前」行き乗車



駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。

ご挨拶

みおつくしチャリティー能も第7回を迎えます。

皆様にはチャリティーを主眼においた、本公演にご理解を賜りまして、心より御礼申し上げます。

前回ご来場の皆様から頂戴しました浄財・義援金を朝日新聞厚生文化事業団へ80万円をお送りさせて頂きました。厚く御礼申し上げます。

本年は【産経新聞厚生文化事業団】を通じて、能登半島地震・豪雨で被災されました方々へお送りさせて頂きます。

年の瀬、お忙しい事と存じますが、ご理解を賜りまして、何卒ご来場頂きたくお願い申し上げます。

公益社団法人 能楽協会 大阪支部員一同

お問い合わせ・お申し込みは

公益社団法人 能楽協会 大阪支部

TEL 06-6761-8055・FAX 06-6761-3399

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7 大槻能楽堂内

本公演における写真撮影・録音・携帯電話等にての撮影・録音は著作権・肖像権に触れますので遠慮いただきますようお願いいたします。

Unauthorized recording or photography of the performances is prohibited and a violation of copyright. (Thank you for understanding and we hope you will have a good time.)

入場券のご案内

- 入場料【全席自由席】
前売 4,000円
当日 4,500円
学生 2,000円

チケットのご購入について:

大槻能楽堂・出演各能楽師、チケットぴあ(Pコード:530-208)にてご購入いただけます。大槻能楽堂でご購入の場合、お電話もしくは直接窓口にてお求めいただけます。お電話でお申し込みの場合は、公演10日前までに窓口にお引き取りにきていただくか、ご郵送いたします(代金引換郵便にてご郵送いたします。ただし手数料800円がかかります)。なお、一度お申し込みされた入場券につきましては、キャンセル・変更ができません。あらかじめご了承ください。

ご来場時のお願い

- ご入場時の混雑を避けるため、距離を取って、屋外にてお待ちいただく場合がございます。
 - 会場内での飲食はお控えください。
 - ご退場時、一斉にお席を立たれますと階段・玄関が混雑いたします。ご配慮賜りますよう、お願い申し上げます。
- ※諸般の事情により、配役や番組を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

第1部・第2部入れ替え制です。各部毎にチケットが必要になります。
両方ご覧になる方も、一度外に出ていただいてからの入場となります。あらかじめご了承ください。

観世流 仕舞 **隅田川** 塩谷 恵
巻絹 赤井きよ子
 地謡 立花香寿子
 前田和子
 前田飛南子
 宮下昌子
 西野翠舟

観世流 能 **賀茂**
 前シテ 里女 山中 雅志
 後シテ 別雷神
 前ツレ 里女 上野 雄介
 後ツレ 天女 山下 あさの
 ワキ 室明神/神職 廣谷 和夫
 ワキツレ 従者 喜多 雅人
 ワキツレ 従者 中村 宜成
 アイ 末社/神 小西 玲央
 笛 野口 亮
 小鼓 成田 奏
 大鼓 辻 雅之
 太鼓 中田 弘美
 後見 赤松 禎友
 大槻 裕一
 地謡 生一 知哉
 大西 礼久
 梅若 堯之
 長山 耕三
 上野 朝彦
 山本 麗晃
 金子 昭
 田中 誠士

金剛流 仕舞 **八島** 中嶋 謙昌
 地謡 田中 敏文
 谷口 雅彦
 藤田 章三
 山口 冬吾

大藏流 狂言 **土筆**
 シテ 遊山人 善竹 彌五郎
 アド 遊山人 上西 良介
 後見 上吉川 徹

— 休憩 15分 —

観世流 舞踊子 **邯鄲**
 シテ 盧生 山本 章弘
 笛 貞光 智宣
 小鼓 成田 達志
 大鼓 上野 義雄
 太鼓 上田 悟
 地謡 梅若 猶義
 大西 礼久
 井戸 和男
 今村 哲朗
 山本 麗晃

観世流 仕舞 **花筐** 梅若 堯之
昭君 長山 耕三
 地謡 赤松 禎友
 生一 知哉
 齊藤 信輔
 大槻 裕一

宝生流 能 **羽衣** 盤涉
 シテ 天人 石黒 実都
 ワキ 漁夫白龍 福王 知登
 笛 赤井 要佑
 小鼓 久田 陽春
 大鼓 辻 芳昭
 太鼓 中田 一葉
 後見 辰巳 大二郎
 岡本 知子
 地謡 山内 崇生
 澤田 宏司
 辰巳 孝弥
 畑 東隆
 伊東 静夫
 堀口 雅一

附祝言
 終了予定 13:45 頃

能 鉢木 (はちのき)

[いざ鎌倉]という言葉の由来ともなった曲です。僧に身をやつした最明寺(北条時頼)が、雪深い佐野(群馬県)を訪れ、源左衛門尉常世に宿を借ります。生活に窮する中でも粟の飯を振舞い、秘蔵していた鉢木(盆栽)を切りくべて暖を取りもてなします。落ちぶれても心は真直ぐである常世の気構えを見たくて鎌倉に戻った最明寺が、関八州の武士に鎌倉入りの声を掛けると常世は取繕う事なく鎌倉に赴きます。そ

の心意気に感じり、本来の領地と共に鉢木になぞらえた土地を与えられるというお話です。

狂言 飛越 (とびこえ)

お茶会に出発した新発知と檀家。途中小川に差し掛かります。檀家は難なく飛び越えて渡りますが、新発知は怖くて渡れません。互いに手を取り合って渡ろうとしますが…。

能 野守 (のもり)

春日の里を訪れた山伏(ワキ)が、野

を守る老人(シテ)にこの野にある溜まり水の謂れを聞くと、野守の鏡と伝えられるようになった故事を語ります。またその鏡は実は鬼が持っていたという話をします。

その鬼の持つ鏡を見たい山伏が祈祷をすると、鬼が大きな鏡を持って現われ、人の心はもとより天界から地獄まで全てを映し出して見せてくれます。白頭(はくとう)の特殊演出では、鬼の姿が膾炙して、より重厚感ができるようになります。

第2部 14:30 開演

観世流 能 **鉢木**
 シテ 佐野源左衛門常世 寺澤 幸祐
 ツレ 常世ノ妻 武富 康之
 前ワキ 旅僧 福王 知登
 後ワキ 最明寺時頼
 ワキツレ 二階堂某 中村 宜成
 ワキツレ 二階堂ノ従者 廣谷 和夫
 アイ 早打 善竹 隆司
 アイ 太刀持 善竹 隆平
 笛 赤井 啓三
 小鼓 久田 舜一郎
 大鼓 森山 泰幸
 後見 上野 朝義
 梅若 猶義
 地謡 浅井 文義
 齊藤 信隆
 山本 博通
 山本 正人
 齊藤 信輔
 水田 雄晤
 鶴 克彦
 稲本 幹汰

観世流 狂言 **嵐山** 山田 薫
采女 上野 雄三
放下僧 永田 克壬
 地謡 上野 朝義
 松浦 信一郎
 井戸 良祐
 水田 雄晤

喜多流 舞踊子 **俊成忠度**
 シテ 平忠度 高林 昌司
 笛 貞光 義明
 小鼓 清水 皓祐
 大鼓 山本 哲也
 地謡 高林白牛口二
 高林 呻二
 松井 俊介

— 休憩 15分 —

大藏流 狂言 **飛越**
 シテ 新発知 善竹 隆平
 アド 檀家 善竹 隆司
 後見 小西 玲央

観世流 能 **野守** 白頭
 前シテ 野守ノ翁 林本 大
 後シテ 鬼神 喜多 雅人
 ワキ 山伏 上吉川 徹
 アイ 里人
 笛 齊藤 敦
 小鼓 荒木 建作
 大鼓 山本 寿弥
 太鼓 上田 慎也
 後見 山本 博通
 大西 礼久
 地謡 上野 雄三
 梅若 基徳
 井戸 良祐
 山田 薫彦
 上野 朝彦
 永田 克壬
 伊原 昇郎
 梅若 雄一

附祝言
 終了予定 18:45 頃

第1部 10:00 開演

能 賀茂 (かも)

賀茂神社の創設の説話を描いた能です。播磨国の神主が賀茂に参拝すると、川辺では真新しい壇に飾られた白羽の矢を見掛けます。水汲みに現われた女(シテ)に謂れを訪ねると、この矢こそ別雷神の姿であり、昔この矢を拾った女性は御祖の神となった故事を語ります。実はその話をしてくれた女こそが神の化身で、夜になると御祖明神として現われ、人々を祝福します。やがて上賀茂より別雷神が来

臨し、五穀豊穡の恵みの雨をもたらすというお話です。

狂言 土筆 (つくづくし)

麗らかな春、二人は遊山に出掛けます。目に留まった土筆を見て古歌を読んだ処、とんでもない勘違いを指摘されます。所変わって沢でも古歌を読みますが…。

能 羽衣 (はごろも)

天人は、漁師白竜が返した羽衣を纏い、地上に幸多かれと祈りを込めて天へ舞い

昇ります。盤涉の小書(特殊演出)では、序之舞が常の黄鐘調より高い盤涉の調子で演奏され舞後が短くなります。又、天人は、登場から暫く橋掛に留まり白竜と距離を保つ、羽衣を返す際の白竜の詞が「松に衣を掛け置けば」と変わり、天人に羽衣を手渡す事が無くなる等、天人をより気高く近寄り難い存在に描きます。

金剛流 仕舞 **八重桜** 金春 嘉織
 地謡 佐藤 俊之
 中田 能光
 田中 直樹
 湯本 哲明